

令和 2 年度

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101404		
法人名	盛岡医療生活協同組合		
事業所名	グループホームさくらの家 西ユニット		
所在地	〒020-0834 盛岡市永井19地割37番地5		
自己評価作成日	令和2年8月27日	評価結果市町村受理日	令和2年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念</p> <p>①『自分らしさを大切にそれぞれの美しい花を咲かせられるさくらの家』</p> <p>②『入居者様・地域の皆様・ご家族の皆様にご集っていただける活気のあるさくらの家』を大切に入居者様が『その人らしく』過ごせるよう、夢・希望を叶える支援に力を入れています。現在、外出自粛が余儀なくされる中、入居者様の夢や希望を伺い、ホーム内でもできることを、職員で検討し行っています。地域活動への参加も難しい中、地域運営推進会議や広報「さくら」等で地域への情報発信を継続し、地域の方から寄付をいただくなど、地域とのつながりが継続されるよう努めています。</p> <p>主治医、歯科医師、訪問看護師、薬剤師等、多職種で連携し、入居者様の体調管理等をチームで行っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>盛岡医療生活協同組合を運営主体とした2ユニットの事業所であり、法人の運営理念に基づき、「グループホームさくらの家」として、その人らしさを大切にすることを念頭に利用者支援に取り組んでいる。運営推進会議では、ご家族や地元自治会、地区民生委員等が出席し毎回多くの意見要望が出されており議事録は全職員に周知され、日頃の支援に活かされている。コロナ禍にある現在、地域との交流、ボランティアの受け入れは中止しているが、敷地内散歩やお花見、お祭り等を事業所内で行う等、出来る事を工夫しながら潤いのある生活ができるよう支援している。毎年、職員アンケートを実施し、職員の意見を取り入れた職場の目標を定め、利用者の生活支援に取り組んでいる。また、医療機関や訪問看護ステーション等と連携を図り、利用者の日々の健康管理や重度化した場合の看取りの対応等、安心して過ごすことができるよう支援に努めている事業所である。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホール、職員休憩室の掲示と、部署会議資料へ記載し意識するよう努めている。今年度の職場目標も職員からの意見をアンケート方式で聞き取り立案した。	理念を玄関や職員休憩室に掲示するとともに、会議の資料に掲載し、職員が共有できるよう努めている。職員アンケートを実施し、職員の意見を取り入れた職場目標を立て、実践に繋げている。また、「夢をかなえるプロジェクト」に取り組み、利用者の食べたいもの、出かけたいところ等の夢の実現に向け、出来る事から取り組んでいる。	利用者がその人らしく生活できるようにするため「夢をかなえるプロジェクト」を全入居者に実施したいとする職員の意見を大切に、今後も継続して実施されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域の方と協力し開催していた行事が開催できなかったが、広報さくらを回覧に入れて頂き、情報発信している。老人クラブより雑巾の寄付や、小学校より掲示物の寄付をいただくなど交流があった。	小学校との交流や傾聴ボランティアの来所、さくらの家まつり等、様々な地域との交流が新型コロナ感染予防のため出来ない状況にあるが、自治会に加入し、広報誌の回覧等で事業所の周知を図っている。また、地域包括支援センターから声を掛けていただき、ウォーキングサロンに入居者1名が参加出来た。コロナ禍にあり地域との交流が難しい状況にあるが、閉鎖的にならないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々にに向けて活かしている	地域清掃等への参加、広報誌でグループホームの役割等の情報発信を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の方、入居者ご家族にも参加していただき、率直な意見をいただいている。感染防止の観点から今年度は入居者様の参加は見合わせている。行事の様子などは写真で見せて頂くことで、日々の様子が伝わるようにしている。	2ヵ月に1回、自治会や福祉推進会の代表、公民館長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員を委員として会議を開催し、利用者の状況、活動報告、事故報告等を行い、活発な意見交換が行われている。広報紙について意見をいただき、字を大きくする等の改善を行った。会議の議事録を作成し、職員全員に回覧し共有できるよう努めている。なお、コロナ禍にあるため、利用者の出席は控えている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者もおり、生活福祉課担当ワーカーと連絡・相談を行っている。2階に地域包括支援センターの事務所があり連絡・相談を行っている。盛岡市からくるメールで情報を入手し、各種申請や届け出に際し助言・指導を得ている。	事業所2階に地域包括支援センターがあり、日頃から連携を図りやすい環境にある。生活保護受給者については担当ケースワーカーと連携して支援し、介護保険の担当者とは随時メールや電話で意見交換している。市民後見人養成講座の見学施設として受け入れていたが、今年度はコロナ禍のため説明会のみとなり、施設長が出向くことになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束禁止に取り組んでいる。身体拘束防止の学習会をe-ラーニングで行い、全職員で共有している。ユニット入り口、玄関は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。身体拘束防止委員会を年4回開催し、日々のケアの振り返りを行っている。スピーチロック等1人1人が振り返り意識することが必要。	指針を作成し、3カ月に1回身体拘束防止委員会を開催している。また、e-ラーニングにより、各自都合の良い時間に学習できる体制をつくり、月1回動画を見た感想、改善点等についてレポートを提出し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。転倒予防のため、センサーマットを半数の入居者が利用している。玄関は防犯の観点から夜間は、施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての学習会をe-ラーニングで行い全職員で共有している。組織として虐待防止に努めている。不適切ケアについての学習や、自分たちのケアについて日々振り返ることが必要。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を利用している入居者様もおり、訪問時に情報交換している。現在3名の入居者様が成年後見制度を利用しており、2階に事務所のある地域包括支援センターや関係者と相談や情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の説明は、丁寧に分かりやすい言葉を用いて行うように心掛けている。料金改定の際は説明会を開催し、説明を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に広報「さくら」を発行し、写真付きのお手紙を毎月送り、情報発信を行っている。ご家族へ連絡した際や、運営推進会議に参加していただいた際にご意見ご要望を伺っている。また、法人で年1回利用者アンケートを実施し、改善が必要な項目について会議にて対策を検討している。	運営推進会議開催時や来所時に家族の意向を確認している。電話連絡時や広報誌、毎月のお手紙で利用者の様子を伝え、意向の確認に努めている。家族から写真も入れて欲しいとの要望があり、4月から改善している。また、法人で利用者と家族に満足アンケートを実施しており、その結果を改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議、月2回のユニット会議を開催し、参加できない職員からも意見を聴取できるようアンケートを取っている。職場目標や総括など、職員の意見を反映させ作成している。	ユニット会議や年2回の面談時に、職員の意向把握に努めている。全職員の意見を反映させるため、年3回、職員アンケートを実施している。1回目は年度当初に当該年度の目標設定、2回目は年度半ばに各自の目標に対し実現出来たことや出来なかったこと、3回目は年度末に当該年度の総括としてのアンケートを行っている。アンケートには、前向きな意見が多く記載されており、その結果を基に職員の意見を運営に活かすよう取り組んでいる。	年3回、定期的に職員アンケートを実施している。職員も前向きな意見等を記載し、介護の質の向上や業務改善等に繋げており、今後も引き続き実施されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理の徹底や、委員会で労働環境等について議題にあげ、職員が健康で働き続けられるよう環境整備に努めている。資格取得のサポートや個々にあった研修参加へのサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修はe-ラーニングを活用し、全職員が共有できるようにしている。法人全体で通信教育にも取り組み、スキルアップにつなげている。新入職員にはエルダー制を導入し職員育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各種委員会や部会などに職員が参加し、同業者との情報交換を行っている。法人での学習会等の開催が困難なため、新たな情報交換のツール等の検討が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から、入居時または生活する中で、要望を伺いケアプランに反映させている。また、ご本人の思いや要望を傾聴する事を大切にし、情報共有を行い支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から契約時に要望を伺い、情報共有し支援につなげている。また、連絡した際や、入居者様の状態に合わせ、その都度要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や、契約時にお話を伺い必要な支援を提供できるよう努めている。ご本人、ご家族が困りごとを相談できるようケアプランに位置付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯畳み、茶碗拭き、料理の味見など、出来ることは行っていただき、役割をもって過ごしていただいている。ホームの飾りつけなども手伝っていただくなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	写真付きのお手紙の送付や変化があった際など、随時連絡し、情報共有に努めている。運営推進会議に参加していただき、ご意見ご要望を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡した際に、ご本人に出て頂いたり、ご家族からのお手紙をご本人に読んでいただいたりしている。「家に帰りたい」という入居者様をドライブにお連れし、家の外観を見て頂けるように計画を立てている。	新型コロナの感染予防のため、ボランティアの来訪や行事等で馴染みの人との交流が少なくなっている。家族からの手紙と一緒に読んだり、誕生日プレゼント等へのお礼の電話をかけたり、関係が途切れないような支援に努めている。「家に帰りたい」という利用者があれば、自宅周辺にミニドライブを兼ねて連れて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、会話や感情がうまく表現できない方には職員が間に入り入居者様同士の関係性を大切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、支援させていただくことを伝え、必要に応じ、相談・支援させていただいている。施設でお亡くなりになられた入居者様ご家族へグリーフケアに努めた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ないご本人の言葉や思いを傾聴するよう努め、伝えるのが困難な入居者様に対しては、ご家族様からお話を伺っている。カンファレンスで情報共有し、ケアに活かしている。誕生日の月にご本人の食べたい物を提供するなどした。	自分の意向を伝えることができる利用者が3分の1程度おり、職員は利用者の思いを何気ない会話の中から受け止めるようにしている。業務日誌には日頃の会話などから、具体的な利用者の意向などを詳細に記載し、それを基にカンファレンスを行い、利用者の意向を日々のケアに取り入れるようにしている。誕生日には食べたいものとバースデイカードを準備しお祝いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの話だけではなく、ご家族からもお話を伺い、職員間で共有している。入居者様の生活リズムに合わせた対応を行うよう心掛けている。入居者様のお部屋や家に飾っていたものをお部屋に持ち込むなど対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や姿勢等、日々の状態を記録に残しながら、情報共有を行っている。訪問看護や往診とも連携し、情報提供いただきながら、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回ユニットカンファレンスの中でモニタリングを行い現状の把握と、ケアプランへ反映させるようにしている。ご家族へは毎月のお手紙や、適宜電話連絡にて情報共有を図っている。往診の医師にも身体状況を確認していただき、計画作成に活かしている。	基本的に3か月に1回見直しを行っている。カンファレンス時にモニタリングを行い、計画作成担当者が原案を作成し、協力医療機関の医師や訪問看護ステーションの看護師に確認し介護計画を作成している。これまでは家族の面会時にプランを説明していたが、コロナ禍の現在、家族にはプランを送付し署名の上で返送してもらっているが、場合によっては電話で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って日々の生活記録や気になること、変化について記入し、情報共有を図っている。変化に応じて、カンファレンスで計画の見直しにもつなげている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中から得られる情報を共有し、ニーズに対応できるよう支援している。アルコールの提供や、脂質制限するなど状態に合わせた食事提供やケーキが食べられない方に誕生日にフルーツゼリーを提供したり、ご本人の食べたい物を提供するなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブより雑巾の寄付をいただいたり、小学校より掲示物を寄付していただき、ホーム内に飾りつけするなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、入居時に確認し、今後の方針について確認している。入居後かかりつけに受診しながら、現在は協力医の訪問診療を受けている。心身の状況に合わせ、精神科や皮膚科の受診が受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を継続して受診出来ることを入居時に説明しているが、殆どの利用者は協力医療機関に変更している。精神科、皮膚科等の専門医の受診も含め、通院は家族付き添いを基本としながら、家族の事情等によっては職員が同行することもある。協力医療機関の訪問診療や訪問歯科診療を受診し、また、法人の訪問看護ステーションから週1回健康観察のための訪問を受けるなど、日頃から利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際、連携記録を活用し、日々の関わりの中での気づきや変化を共有し、相談・助言をいただいている。24時間連絡体制ができており、必要時、相談・報告を行っている。その他、訪問看護師に看取りの学習会を行っていただいた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療相談員と連携を図り、退院に向けての支援を行っている。退院時、食事制限のある方について、医療相談員、看護職、管理栄養士と情報共有を行い、支援を行った。情報については職員間で共有を図っている。		

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期、看取りケアについて指針を作成し、契約時や状態の変化に合わせて、説明している。ご本人・ご家族から思いを伺いカンファレンスで共有し支援方法の統一を図っている。施設での看取りを希望された方がおり、訪問看護師に看取りの学習会を行っていただいた。	重症化した際の対応について、指針を基に入居時に説明している。医療機関のバックアップがあり、家族にも安心感を与えている。これまで1名の方の看取りを行ったが、看取り後にはご家族へ労いの言葉をかけるなど、担当職員のみならず家族のフォローにも努めている。看取りの研修会を毎年開催し、今年度は訪問看護ステーションの看護師を講師に招いて行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故対応マニュアルを作成し、確認している。また、緊急時対応の学習をe-ラーニングで行い、全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップや地域の水害防災マップを掲示し、確認している。水害、地震、火災、日中、夜間を想定し、年3回避難訓練を実施している。	水害や地震、火災を想定し日中、夜間想定避難訓練を年3回実施している。6月には、職員と入居者を対象として垂直避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練は、冬場の15時～16時頃に予定している。これまで近隣住民に避難訓練への参加を呼びかけ、避難経路の確認を行い、駐車場への誘導をお願いしたこともあるが、今年度は、感染予防の観点から職員と利用者で実施している。発電機や暖房器具、食料を備蓄している。	コロナ禍にあり、地域の協力を得ることが難しい現状にあるが、感染予防に取り組みながら、避難訓練の内容、方法等更に工夫をして取り組むことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや表情など非言語を意識し声掛けするよう心掛けている。排泄の声掛けは周りに聞こえないよう配慮し、申し送りの際、入居者様の名前が聞こえないように配慮している。	自己決定できるよう声のトーンや表情を意識して声掛けするよう努めている。排泄介助時は、職員間で共通の言語を決めて声掛けする等、一人一人の人格や誇りを損ねないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体の一方的な声掛けではなく、ご本人の思いを伺い、自己決定できるよう心掛け対応している。また、ご本人の表情や行動から思いをくみ取るよう努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化が進み、職員のペースになってしまうこともあるため、1人1人の生活リズムを大切に、ご本人の希望を伺いながら対応している。短時間でも入居者様との関わる時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好きな服を選んでいただくよう支援したり、ブラッシング等もご自身で行っていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューにしたり、配膳や器の工夫、おやつも手作りして提供したり、誕生日に入居者様の食べたい物を提供するなど工夫している。味見や後片付け、調理のお手伝いを行っていただき食事が楽しみになるよう支援している。	法人の医療機関の管理栄養士による献立を参考に、事業所内で利用者の状況に合った内容にしている。調理を利用者にも手伝ってもらうこともあったが、介護度が高くなってきており、今は皮むきや盛り付け・後かたづけ等、可能な範囲で行っている。コロナ禍のため行事やドライブに出かけることが出来ず、お花見やお祭りを事業所内で行ったり、外部からお弁当を取り寄せるなど、利用者が少しでも食べる楽しみを感じながら生活出来るようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックしている。1人1人の状態に合わせて、常食、ミキサー食、キザミ食、トロミ等を提供している。食事量の少ない方には、補色を検討し、水分量の足りない方には、ゼリーにして提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、歯ブラシやスポンジブラシを使用し、ご本人の状態に合わせて支援している。必要に応じ歯科往診と連携し、口腔機能維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況により、おむつを使用している方もいるが、排便の兆候が見られたらトイレに座っていたり、排泄チェック表を確認し、排泄パターンに合わせた声掛け、尿意・便意を訴えられない方の排泄のサインを把握し声掛けしている。	排泄チェック表を活用し、入居者一人一人の排泄パターンを把握し自立支援に努めている。失敗した際には、本人の自尊心に配慮し他の利用者に気づかれぬようトイレ誘導する等、細心の注意を払って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に良いとされる食材を取り入れたり、水分の足りない方には摂取していただく工夫をしている。便秘気味の方は訪問看護、往診と連携し、下剤を処方していただき排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調やご気分に合わせて声掛けし、入浴していただいている。入浴を嫌がる入居者様に音楽を流すなどの工夫をし、入浴していただけるようになった。職員と1対1で関われる時間でもあるため、入浴の支援を行いながら、コミュニケーションを図っている。	週2回、午後入浴を基本としながら、可能な限り入りたい時に入れるよう対応している。介護度の高い利用者については、シャワー浴で対応している。また、利用者の好きな音楽を流したり入浴剤を使用する等、少しでも気持ち良く入浴できるように利用者の状況に合わせて対応している。入浴時は、職員と利用者が1対1で会話を楽しみながら寛いで入れるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、1人1人の生活リズムに合わせて休んでいただいている。ご本人の状態に合わせて、昼寝をしたり、お酒が好きな方に、眠れないとき少量の飲酒をする方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回薬剤師による配薬を行っていただき、訪問時にご本人の状態や副作用等について共有している。飲み込みが困難な方は散剤に変更していただくなど、安心して服用できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯干し、畳み、茶碗拭きなど出来ることは行っていただくよう支援している。歌や体操などのレクリエーションや編み物が得意な方に、編み物をしていただいたり、お酒が好きな方に行事等で少量のお酒を提供し、役割や楽しみを持っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出することは出来ないが、天気の良い日は駐車場を散歩したり、サンデッキでコーヒーを飲んだり、シャボン玉で遊んだり体操をしたり、外気に触れられるように支援している。	新型コロナ感染予防のため、外出の機会が減っているが、天気の良い日には駐車場を散歩している。サンデッキで外の景色を眺めながら、コーヒーを飲んだり、体操やシャボン玉をして楽しんでいる。「さくらの家まつり」を事業所内で行い、職員の余興やゲーム大会、夕方には花火を楽しみ、たこ焼きや焼きそばを食べ、少しでも気持ちが和らぐよう工夫している。また、感染予防に十分留意しながらミニドライブなども検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭管理は行っておらず、ご本人の日用品などの欲しいものを確認し、ご家族に確認して買い物の支援を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の要望があった際に、掛けて頂いている。ご家族からのお手紙やプレゼントが届いた際には、ご本人にお渡ししたり読んだりしている。プレゼントが届いた際には、ご本人さんからお礼の電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の出るような飾りつけや、見えやすいところに日付を掲示している。天候に合わせ、入居者様が過ごしやすいように、照明や温度を調整している。席の配置も工夫し、入居者様が心地よく過ごせるようにしている。	共有スペースのホールには、テーブルや椅子、ソファ、テレビが備え付けられ、暖色系オレンジの照明で、利用者は落ち着いた雰囲気の中で思い思いの時間を過ごしている。季節にあった折り紙の花を飾る等、四季折々の変化を楽しむことができるよう工夫されている。温度や湿度をエアコンやヒーター、加湿器で管理し、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前ソファ、キッチンカウンター、食事席、キッチン脇のソファなど、入居者様の状況に合わせて、1人で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に、自宅から持ってきた写真やご家族からのプレゼントのお花を飾ったり、鏡台をお持ちいただいている方もいる。その他、寝具類も使い慣れたものをお持ちいただくようにしている。	室温はエアコンで管理され、ベッドやタンス、収納棚、ロッカーが備え付けられている。寝具類やラジオ、雑誌等、普段自宅で使っていた馴染みの物を持ち込み、写真や家族からのプレゼントの花束等を飾る等、居心地の良い生活ができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、手すりや歩行器を使用して歩行される方が、安全に歩行できるよう椅子やテーブルの配置を工夫している。居室内も伝い歩きできるよう家具の配置等工夫している。その他、自室がわかるよう名前を書いたり、トイレの表示をしたりしている。		